

「情報セキュリティ10大脅威2019」 が公開されています!

IPA（情報処理推進機構）から、「情報セキュリティ10大脅威2019」が公開されています。

「組織」の視点から選出された脅威では、「**サプライチェーンの弱点を悪用した攻撃の高まり**」

が新たにランキングに加わっています。

今や企業経営においては、自社のみではなく、サプライチェーン全体でセキュリティ対策を実施することが求められています。



順位	組織	昨年順位
1位	標的型攻撃による被害	1位
2位	ビジネスメール詐欺による被害	3位
3位	ランサムウェアによる被害	2位
4位	サプライチェーンの弱点を悪用した攻撃の高まり	NEW
5位	内部不正による情報漏えい	8位
6位	サービス妨害攻撃によるサービスの停止	9位
7位	インターネットサービスからの個人情報の窃取	6位
8位	I o T 機器の脆弱性の顕在化	7位
9位	脆弱性対策情報の公開に伴う悪用増加	4位
10位	不注意による情報漏えい	12位

「NEW」は初めてランクインした脅威

第4位 サプライチェーンの弱点を悪用した攻撃の高まり

サプライチェーンとは、原材料や部品の調達、製造、在庫管理、物流、販売までの一連の流れ（商流）と、この流れに関わる複数の組織群のことを言います。

攻撃者は、サプライチェーン内のセキュリティ対策が不十分な組織、箇所を攻撃の糸口に侵入し、最終目的である標的への攻撃を試みます。

(IPA「『情報セキュリティ10大脅威2019』を決定」を基に作成)

製造しているソフトウェア等に不正なプログラムを仕掛ける

IT機器やソフトウェア製造過程でマルウェアに感染させたりバックドアを仕込んでおく方法。

過去にはソフトのアップデートプログラムが改ざんされ、マルウェアがばらまかれたことがある。

取引先企業を攻撃して標的企業に侵入する

標的企業のグループ企業や業務委託先、発注先などを攻撃し、それを足がかりにして標的企業に侵入する方法。

セキュリティ対策が強固な大企業は侵入が難しいことから、セキュリティ対策があまり行き届いていない取引企業がターゲットになる。

本年1月30日に、IPAから「情報セキュリティ10大脅威 2019」の決定について発表されていますが、詳しい解説は2月下旬にウェブサイトで公開される予定です。

<https://www.ipa.go.jp/security/vuln/10threats2019.html>